

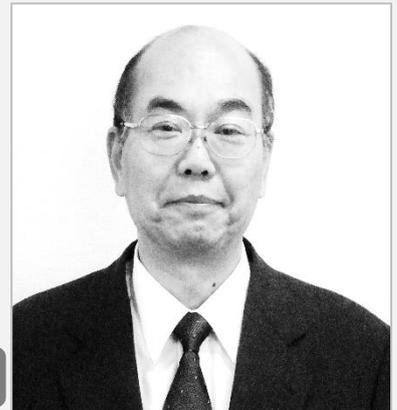
日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター

連続講座『日本キリスト教史を読む』（番外編）

特別講義「スペイン風邪（1918-20年）の時、 この国のキリスト教会はどうしたか」

1918-20年（大正7-9年）、この国でも「スペイン風邪」が流行しました。世界中で4千万人が死亡したとされるパンデミックでした。日本だけでも、当時の内務省の調査で38万5千人が亡くなったとされています。歴史人口学者・速見融氏の推計では、内地だけで45.3万人、当時日本の植民地とされていた台湾・朝鮮・樺太などで約28.7万人、合計74万人が命を失ったと見られています。これほどの犠牲者が出たにもかかわらず、その後の教会の記録などには、その影響や痕跡を見出すことがほとんどできません。それは何故なのか、その時キリスト教会はどう対応したのかについて、当時の第一次資料から読み解いてみましょう。2017-19年に行なわれた連続講座「日本キリスト教史を読む」の番外編として、COVID-19の感染が拡大している現在と共通する課題を共に考えるために、この講座は企画されました。

講師・戒能信生（日本基督教団千代田教会牧師）



2020年9月24日(木) 14:00~16:00

会場費・資料代 1,000円

S

会場 早稲田奉仕園 スコットホール

新宿区西早稲田2-3-18

感染を予防するために、会場は早稲田奉仕園スコットホール（定員200人のチャペル）を会場に、先着80名限定で実施されます。充分気をつけてご参加下さい。



主催
日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター
共催
早稲田奉仕園

〒169-0051
新宿区西早稲田2-3-18
TEL 03-3207-6198
Email info@academy-tokyo.com